

■ベーテル麻機を目指して



地域社会に貢献したい」「人とのつながりを大切に生きていきたい」「自然と共存したい」「自分の手で作物を育ててみたい」・・・。

「生きる目的を明確に持ち、真の幸せを子供たちに残したい」

障がい、健常に関わらず、誰もが心に持っている願い。

障がいを持つ方々の純粋さから、今、私たちが見失った「暖かい人間性」「生きる目的」「本当の幸せ」を取り戻し、障がいを持つ人との協働・共生を図ることで、人間力の維持・強化を図って真の安心を提供することを目的とする。



ドイツ ベーテル



麻機遊水地第4工区



ベートル (Bodelschwingschen Foundation Bethel)

ベートルはドイツ・ビーレフェルト市(人口34万人)にあり、その施設やシステムはベルリンをはじめドイツ国内を中心に広がっている。ベートルには各種病院や老人ホーム、特別支援学校などがあり、約1万4000人の医療従事者がいる。医療と福祉が機能的に行われており、障害者も老人もさまざまな仕事(約2500職種)に就くことで、生き甲斐をもち充実した暮らしを送っている。

活動

高齢者支援 ・ リハビリテーション ・ 障害者支援 ・ てんかん ・ ホスピス ・ 青少年支援 ・ 病院 ・ 脳機能障害者支援 ・ 精神医療 ・ 施設利用者の起業支援 ・ 教育:学校、職業教育、大学 ・ ホームレス支援

「ベートルてんかんセンター」は、最古のそして最大のてんかんセンターとして世界的に有名です。日本でてんかん学会の医師の方々も訪れています。(「ベートルてんかんセンター」については、[静岡てんかん・神経医療センター](#)の紹介ページに詳しい説明があります。)この「ベートル・フォン・ボーデルシュヴィング総合医療・福祉施設ベートル」は、さまざまな障害者が住む「福祉の町」として知られています。

このベートルの基礎をつくったのが、父フリードリッヒ・フォン・ボーデルシュヴィングで、同名の息子(別名・フリッツ)に引き継がれ、障害のある人の住む場所と仕事の場を創り一つの町にしたのが「ベートル」で、1867年(ボーデルシュヴィングが着任したのは1872年)から始まった歴史のある施設です。当時からてんかんのある人の医療的支援もしたようで、抗てんかん薬としてはプロム剤(臭化カリウム)しかなく、今よりもはるかに、てんかん発作で苦勞時代です。

「ベートル」は「施しよりも仕事を」という方針で、障害者も住み働けるまちづくりを目指して今日に至っています。その間に、息子ボーデルシュヴィング(フリッツ)の時代にはナチスの障害者安楽死計画があり、障害者を差し出すようにナチスが迫る中で毅然として反対したことは、周囲の障害者、家族、関係者の不安な様子や彼の行動などの記述から大変な苦勞であったことが読み取れます。父ボーデルシュヴィングが亡くなったときに日本から弔電を送った日本人牧師留岡幸助の話にも驚きました。また、ホームレスの人々に対しても20世紀初頭には支援を行っていました。日本では明治時代です。



ベートルと麻機



ベートルはドイツ・ビーレフェルト市(人口34万人)にあり、その施設やシステムはベルリンをはじめドイツ国内を中心に広がっている。ベートルには各種病院や老人ホーム、特別支援学校などがあり、約1万4000人の医療従事者がいる。医療と福祉が機能的に行われており、障害者も老人もさまざまな仕事(約2500職種)に就くことで、生き甲斐をもち充実した暮らしを送っている。

麻機は、「地方独立行政法人静岡県立病院機構(元静岡県立こども病院)」、「独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター」という全国でも屈指の専門病院と静岡県立北特別支援学校、静岡県立中央支援学校という静岡県の障がい者教育の中核を持ち、それ以外にも、保育園、幼稚園、小学校、中学校等の一般教育施設と高齢化を迎える住宅地域。そして、静岡市の物品の流通の要「静岡市流通センター」を擁している。

また、麻機遊水池という環境省の推進する自然再生事業実施計画地によって、市街地と隔絶される地域である。故に麻機において、『医療・福祉・地域・環境』を機能的に実践することにより、これからの低成長高齢化社会への静岡の提言として発信をすることが可能となる。



ペーテル麻機の目指すもの

障害のある人が障害のない人と同様、その能力と適性に応じた雇用の場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような社会の実現を目指し、障害のある人の雇用と生活の充実を総合的に推進する。



障がい者

障がい者の真実・・・なぜ 弱者なのか
障がい者の能力の周知
障がい者との協働の可能性
実践・実証から雇用機会の拡大

医療・教育機関

本職からの直接的実践体験
リハビリ・就労支援施設の欠如
心にゆとりをもたらすリクリレーション
ドクターの安息休憩場所
ショッピング・生活必需品

地域・高齢化社会

麻機遊水池の自然再生
里山の荒廃・竹林問題放棄農耕地の増加
子どもの自然体験減少
地域住民の高齢化・孤独化の増加

協働・創造・繁栄

流通機関

労働力不足
若年者・障がい者就労支援、社会貢献
消費者の確保・増加
情報発信・未来型商店街の形成

第三工区遊水池 自然再生事業

この全てに障がい者・地域・医療が絡んでいたら？



自然観察



観光



自然体験



体験学習



リハビリ



見学・研修



就業訓練



雇用促進



第三工区遊水池
自然再生事業

この全てに障がい者・地域・医療が絡んでいたら？



静岡てんかん・神経医療センター



職員住居



患者家族・宿泊



地方独立行政法人静岡県立病院機構（元静岡県立こども病院）



カフェ
コミュニケーション
単純会話からの発展
接客に伴う自信回復

↓
会社・現場研修



第三工区遊水池



散策
健康増進
体力回復
ストレス解消
↓
病苦予防



作業体験
精神安定・安心
単純会話からの発展
↓
社会復帰



お食事
静岡地場産品
静岡製品PR
↓
雇用の創造



宿泊
静岡地場産品
静岡製品PR
↓
雇用の創造

静岡てんかん・神経医療センター



職員住居



患者家族・宿泊



地方独立行政法人静岡県立病院機構（元静岡県立こども病院）

静岡流通センター



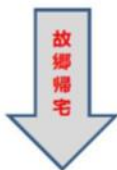
お土産
静岡地場産品
静岡製品PR



お食事
静岡地場産品
静岡製品PR



宿泊
静岡地場産品
静岡製品PR



現実生活
不安の再燃
静岡への憧れ
↓
地域に同じ形態を希望
↓
行政に働きかけ



医療関係
流通センター

この全てに障がい者・地域・医療が絡んでいたら？



独居老人御用聞き・
安否確認



漆土器再生



駿河炭復活



麻機遊水池進出によって産めること



支援学校生徒への
草刈り実技指導



動力草刈り実技指導



動力機械の安全安心使用を実現
↓
公園整備事業へ
↓
企業への採用機会の拡充



入院患者リハビリ・支援
学校生徒への接客・
おもてなし指導



地域産品・お土産・
待合所



カフェ・
ドクターの癒しの空間

社会応用訓練
↓
コミュニティバス運営拠点の運営
↓
地域産品・生活必需品の販売
↓
おもてなし・復帰訓練



竹林整備・里山整備



循環資材作り



健康野菜生産

整備事業(竹林・里山・遊水池)
↓
循環副産物の生産
↓
産直・新規地域特産品の開発
↓
流通センター所有山林の整備事業



宅配・
ケータリングサービス



独居老人安否確認



コミュニティバス運行

便利屋事業(病院・高齢者・弱者)
↓
物品の移動・配達
↓
人の移動・送迎
↓
高齢者地域・病院・遊水池・流通センターの連結

流通センター進出によって産めること



レーザー加工事業の
効率化



メンバーとお客様の
共有の拡大



メンバーとお客様の
笑顔の創造

労働環境の改善と夢創り
↓
お客様との打ち合わせに現場メンバーの参加
↓
認められることによる向上
↓
メンバーの才能の開花の機会創設



流通センター事業者へ
のメンバーサービス提供



企業現場の理解獲得



就業機会の増大

企業実習・施設外就業訓練
↓
企業作業現場の理解・支援
↓
企業の受け入れ態勢の構築
↓
協働成功例としての情報発信



遊水池整備



天然資源確保・粉砕肥料



商品製作・販売

整備事業(遊水池)
↓
循環副産物の生産
↓
産直・新規地域特産品の開発
↓
本物普及・伝統技法保存事業



生け花資材の確保



観賞用運栽培



コミュニティ園芸

遊水池特産物の栽培
↓
伝統文化の継承
↓
人の往来創造
↓
コミュニティ園芸を通しての人の和作り

本質的安心を与える癒し産業



障がい者・自然・医療の協働による
農村・山村・温泉リゾート施設の建設



がんの全身療法：

がんの三大療法は、外科療法、放射線療法、化学療法(抗がん剤)ですが、いずれも一長一短があります。

集学的治療：

手術療法、放射線療法、抗がん剤療法を組み合わせた治療法のことです。

緩和療法：

患者さんの痛みや苦しみを緩和させるための治療法のことです。



転地療法：

初期治療終了患者さん・御家族の結果待ち時間の精神的不安を緩和させるための治療として障がい者運営の滞在施設の設置。

ベーテル麻機の目指循環社会・相互協働社会

